

# VI. 事業の基本計画案【水辺遊歩空間賑わいづくり】

此花西部臨港緑地エリアの魅力ある水辺空間を活用するため、民間活力の導入により、人々が訪れ水辺の回遊を楽しみ、大阪・水都を感じるエリアを実現する。

目標

2025年大阪・関西万博開催までに緑地の回遊性を創出



＜水辺からのアクセス性・融合性を高める＞  
水上レストランなど水面利用施設の新設

既存の船着場の活用や水上施設などを取り入れ、親水エリアとしての価値を高め、桜島エリア・USJへのアクセス、回遊性を拡げ、水辺の玄関口、水上交通の拠点としての印象を強める。



【整備にあたっての考え方】

- 水面利用空間～河川区域、臨港緑地、地先民間敷地をできるだけ一体的な空間となるよう整備を図る。
- 景観に配慮した一定のコンセプトに基づくデザインルールを作成・運用する。

# VI. 事業の基本計画案【舟運等のネットワーク拠点賑わいづくり】

此花西部臨港緑地エリアの既存の水上交通ネットワークに加え、新たなネットワークを構築し、新しい水辺の玄関口を実現する。

目標

大阪・関西万博開催、IR開業に合わせ、新たなネットワークを形成

〈舟運ネットワークの拠点「水辺の玄関口」〉  
～大阪市内の川と海をつなぎ、新たな舟運の拠点へ～



海遊館・道頓堀・夢洲などからの船によるルート  
の需要に応じて新たな船  
着場も整備し、大阪ベイ  
エリアの拠点とする。

レジャー施設隣接の立地  
性を生かし、大阪・水都  
を体感できる滞在を来街  
者へ提案。



〈新しいアクセス手段「空飛ぶクルマ」〉  
～次世代モビリティによる地域活性化～

便利さと楽しさが味わえ、防災機能の強化、生活のイノベーションの創出、地域活性化など、様々な分野での活用が期待されている「空飛ぶクルマ」を大阪ベイエリアで体験。

(今後の状況により検討)



大阪湾を飛行する「空飛ぶ車」のイメージ



©Volocopter

万博を見据えたドローンを使った実証実験（中央突堤）





# VI. 事業の基本計画案【水辺遊歩空間賑わいづくり】活用イメージ

堤防上のボードデッキエリアに店舗等の整備を進め、遊歩空間の回遊性を確保するとともに、立地特性を活かした景観形成により、人が集まる場としての“賑わい”を創出して、水辺の魅力を最大化する。

## 〈賑わい施設〉

広場、イベント施設、遊歩道、飲食店、売店、オープンカフェ、広告板、広告柱、照明・音響施設、バーベキュー場、日よけ、船上食事施設、突出看板、川床 etc.

## 〈賑わいコンテンツ〉

マルシェ、ワークショップ、フードイベント、企業PRイベント、音楽イベント、アートイベント etc.





# VI. 事業の基本計画案【舟運等のネットワーク拠点賑わいづくり】活用イメージ

既設のユニバーサル・シティ・ポートの活用に加えて、新設の船着場や係留施設を整備し、「海のリゾートネットワーク」と「水の回廊ネットワーク」の結節拠点としての機能を強化することにより、大阪の臨海部と都心部の連続性を一層高める。

これにより、此花西部臨港緑地エリアの水辺遊歩空間やユニバーサル・スタジオ・ジャパン、シティウォークを含む賑わい拠点と大阪・関西の各賑わい拠点との相互交流を図り、人が集まる場としての“賑わい”を創出して、水辺の魅力を最大化する。

〈賑わい施設〉

船着場、船舶係留施設、切符売場、案内所 etc.



出典：(株)キャプテンラインHP



出典：大阪水上バス(株)HP

